

平成25年度 事業計画書

学校法人 日本医科大学

目 次

	頁
1. 法人の概要	1～3
2. 日本医科大学	4～9
3. 日本獣医生命科学大学	10～13
4. 日本医科大学付属病院	14～24
5. 日本医科大学武蔵小杉病院	25
6. 日本医科大学多摩永山病院	26～30
7. 日本医科大学千葉北総病院	31～33
8. 日本医科大学成田国際空港クリニック	34
9. 日本医科大学腎クリニック	35～36
10. 日本医科大学老人病研究所	37～39
11. 日本医科大学国際交流センター	40
12. 日本医科大学知的財産推進センター	41～43
13. 日本医科大学看護専門学校	44～45

1. 法人の概要

1. 事業計画の概要

アクションプラン 21 において新病院建築が順調に進捗し、武蔵境地区の合同教育棟の建築、新丸子校舎移転に伴う武蔵小杉地区の開発などの計画を進めていく。

どの計画も多額の資金を必要としており、法人収支の改善を計画的に進めなければならない。

日本医科大学と日本獣医生命科学大学の統合も検討段階において、法人財務状況の改善が図られなければ、具体的な作業を進めることは難しい状況であり、継続して検討していく。

組織体制面においては、日本医科大学で教育・研究体制の整備充実を目的とした「教育部」、「研究部」を設置する。また、研究室及び研究施設を統合した「共同研究センター」を新設して研究の円滑化・合理化を計画している。

附属病院は新病院への移行に向け、診療科の再編成を順次実施する予定である。

2. 収支計画

平成24年度は帰属収支差額11億円弱の予算計画を立てたが、目標達成には至らない状況が予想されている。本法人の財務状態は、他大学に比べ余裕のある状態ではなく、目標達成することが必須であります。大学及び学校の収支は学生納付金が主要な収入であり、ほぼ一定の収入が確保されており、それに合わせて支出予算を組むことが可能です。

しかしながら病院は支出についてはある程度、状況により抑制等で管理することが可能ですが、医療収入は緻密な実施計画を立て月次単位で検証対策を立て実施することが重要となります。

平成25年度は収入総額871億円とし、前年度より47億円の増収計画となります。そのうち医療収入において703億円を目標として40億円の増収を見込んでいます。

支出総額は845億円であり、前年度より23億円の増加を計上しており、差引き収支差額は25億8千万円を見込んでいる。収入総額の3%に当たる数値であり決して高い目標ではない。借入金の残高は487億円と平成24年度と同額である。依然、多額の有利子負債を抱えている状況は変わらず、収支差額の目標達成は必ず成し遂げる必要がある。

3 管理運営

区 分	H 2 5 年 度 に 取 り 組 む 諸 業 務 等
<p style="text-align: center;">財 務 部</p>	<p>1. 法人全体の収支改善への取組</p> <p>① 医療収入の増加に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度目標収支(帰属収支差額目標25億円)に向けた予算策定 ・各病院ごとの月次医療収入実績と予算対比 ー ー ー 診療科別には病院経営企画室と連携 ・事業計画の実施状況フォロー ー ー ー 企画部と連携 <p>② 医療経費削減のための体制作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度目標収支に向けた予算策定 ・薬品費削減のための体制作りとフォローの仕組みづくり ー ー ー 管財部・病院資材課と連携 ・医療材料費削減のための体制づくりとフォローの仕組みづくり ー ー ー ” <p>③ 補助金収入増へ向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度国の補助金予算の中身の理解とそれに見合った補助金申請への誘導 ー ー ー 補助金・助成金対策室との連携 ・2大学、4病院との連携を図りタイムリーかつ効果的な申請を図る。 <p>④ 投資効果測定 ー ー ー 高額医療機器 ー ー ー 情報化投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資効果測定の標準化を図り、定例的に評価する仕組みを作る。ー ー ー 管財部・病院資材課と連携 <p>⑤ 管理費等の節減に向けた取り組み強化</p> <p>⑥ 長期資金計画の最新データによるレビューの実施</p> <p>⑦ 法人本部負担費用の削減に向けた取り組み</p> <p>2. 円滑かつ低利な資金調達への推進、手数料負担の増加抑制</p> <p>① 武蔵境地区の合同教育棟に関し、私学事業団からの耐震改築事業への低利融資の実現</p> <p>② 民間金融機関からの借入金利条件の改善、銀行支払手数料の増加抑制への取り組み</p> <p>3. 寄付活動の推進継続</p> <p>① 新病院建設工事等の進展にともなう更なる寄付募集の推進継続</p> <ul style="list-style-type: none"> --- 税額控除制度導入により中間層が、募金し易い環境になってきたので税額控除の理解を求める。 --- 募金委員会との連携による企業・取引先関係に対する働きかけの強化を図る。 <p>4. 財務システムの見直しを含む業務効率化推進</p> <p>① 現在の集約システムと用度システムは作成して15年以上経過しており、様々な不具合点が顕在化している。学校法人会計基準改定をにらみつつ抜本的なシステム改善の検討をスタートする。</p> <p>② 現在の業務内容の見直し・業務効率化を継続し、時間外勤務の削減を図る。(特に決算業務)</p> <p>5. 学校法人会計基準改定に向けた対応策の検討着手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集を継続。また第4号基本金の積増し・システム対応等、対応策の検討に着手する。

<p style="text-align: center;">人事部</p>	<p>(1) 人事部人事課 関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院看護師増員計画に伴う募集採用強化:採用目標330名 2. 障がい者雇用の増加対策(法定雇用率2%・除外率30%、不足数7人) 3. 職場における人権侵害・ハラスメント対策(セクハラ・パワハラ・アカハラ防止ガイドライン作成) 4. 労働契約法一部改正(平成25年4月1日施行)に伴う有期雇用者対策 5. 兼業規則制定(就業の確保、産学官連携研究活動、就業規則の兼業禁止規定) <p>(2) 人事部給与厚生課 関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 通勤手当算定のシステム化 2. 時間外勤務・長時間勤務の軽減改善対策 3. 大規模災害時の職員安否確認、病院機能維持・職員参集対策システム構築 4. 日本医科大学保育施設開設(平成25年10月付属病院千駄木寮内予定) <p>(3) 人事部看護課 関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本医科大学4病院看護職員能力育成・教育研修企画実施 <ol style="list-style-type: none"> ①臨地実習指導者講習会 ②フィジカルアセスメント海外研修 ③家族看護研修 ④看護管理者研修等 2. 病院看護師増員計画に伴う募集採用強化:採用目標330名 <p>(4) 人材育成・能力開発を目的とする職員階層別研修実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理職のマネジメント研修 2. メンタルヘルス研修(管理職対象) 3. ハラスメント防止対策研修(パワハラ・セクハラ・アカハラ等) 4. 目標管理に基づく人事評価の評価者研修 5. 医師人事評価に係る評価者研修
<p style="text-align: center;">開発推進部</p>	<p>武蔵小杉地区再開発事業</p> <p>武蔵小杉キャンパスにある日本医科大学基礎科学校舎(新丸子校舎)、同大学グラウンド及び武蔵小杉病院は建物の老朽化が著しく、建替え計画を検討している。</p> <p>武蔵小杉キャンパスを含む約10haの区域は、川崎市都市計画マスタープラン「小杉駅周辺まちづくり推進地域構想」の地域計画誘導地区「医療と文教の核」として位置づけられており、この計画に沿った開発を進めることにより用途地域の見直し(容積率・高さ制限の緩和)が予定されている。</p> <p>防災性強化や近代化による地域医療への貢献を目指した新病院建設計画の実現を可能とし、かつ、本法人の中長期資金計画にも寄与することで法人経営基盤の充実・強化に繋がることを目的として取り組んでいる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成26年度の川崎市との都市計画決定に向けた協議の継続 <ol style="list-style-type: none"> 都市計画決定のための企画提案書、環境アセス方法書、開発行為事前相談書の作成・提出 2. 新丸子校舎用地の川崎市への小学校用地として定期貸借契約に向けた協議の継続 3. 武蔵小杉病院の建替計画の推進 <ol style="list-style-type: none"> 基本設計業務の開始(基本設計業務期間～平成26年9月予定)

2. 日本医科大学

1. 事業計画概要

本学の教育理念である「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」のもと、高い実践力と技術力を教授し、豊かな人間性を育成することを目的として、我が国最古の私立医科大学に相応しい教育研究活動の充実を図るとともに、本法人の中長期計画である「アクションプラン21」を共に推進し、目標帰属収支差額20億円の達成に向けた予算編成を策定する。

平成25年度においては、今年度末に予定されている合同教育棟（仮称）の施設整備計画に基づく新丸子校舎の移転事業を円滑に進めることを最優先課題とし、昨年度に実施した教育・研究・診療の一元化を実現するための医学部学科目および大学院分野の改組に伴う新しい授業カリキュラムの構築、教育・研究体制の整備充実を図るための新たな職制の制定、研究活動の円滑化効率化を推進するための統括部署の設置等を始めとした抜本的な改革に取り組む。

さらに、昨年度より継続している研究活動の活性化支援、競争的外部資金の獲得、他大学との学术交流の普及、節電対策に考慮した施設設備の改修等、教育研究機関としての使命と社会からの要請に遺漏なく対応可能なシステムの構築を目指し、教職員が一丸となって当該事業の実現に努めて行く。

2. 教育活動

(1) 教務部長の職制の制定

- ・ 日本医科大学に、教務部長の職制を新設する。
- ・ 教務部長は、教務部委員会委員長となる。
- ・ 教務部長は、医学部長及び大学院医学研究科長と連携し、日本医科大学の教育全般について掌握する。

(2) 医学教育センター（仮称）の設置

- ・ 現行の教育推進室を改組して医学教育センター（仮称）を設置する。

- (3) 臨床研究指導医教育ワークショップの見直し
 - ・ 付属 4 病院の臨床研修指導医が人事異動等の事由に伴う減少の抑制を図り、ワークショップの開催回数を現行の年 1 回より年 2 回に改定する。
- (4) 大学院の実質化
 - ・ 分野間の連携、共通カリキュラム、公開特別講義等の充実により、大学院の実質化を推進する。
- (5) 医学部カリキュラムの検討
 - ・ 国際認証に値するカリキュラム（BSL70 週カリキュラム）を教育委員会で審議策定し、平成 26 年度入学生より対応できるよう準備を進める。
- (6) 医学部定員の増員
 - ・ 現行定員 114 名の 1 年生入学者について、東京都の地域枠による増員を検討し、学生生徒等納付金収入の増収を図る。
- (7) 医師国家試験対策
 - ・ 5 年次から国家試験対策を開始し、2 年間の一貫教育を実施することで合格率の向上を図る。また、留年者および既卒者に対する教育指導体制も合わせて実施する。
- (8) 大学認証評価
 - ・ 学校教育法第 109 条第 2 項の定めに従い、平成 26 年度内に実施予定の（公財）日本高等教育評価機構による大学認証評価に向けて準備を行う。

3. 研究活動

- (1) 研究部長の職制の制定
 - ・ 日本医科大学に、研究部長の職制を新設する。
 - ・ 研究部長は、研究部委員会委員長となり、共同研究センター（仮称）の指導と監督を行う。
 - ・ 研究部長は、大学院医学研究科長及び医学部長と連携し、日本医科大学の研究全般について掌握する。
- (2) 共同研究センターの設置
 - ・ 日本医科大学に、共同研究センターを新設する。
 - ・ 共同研究センターに、「医学放射性同位元素研究室」、「実験動物管理室」、「磁気共鳴分析施設」、「形態解析共同研究施設」及び「情報科学センター」を置く。
 - ・ 共同研究センターに、センター長を置く。

- ・ センター長は、上記5施設の指導と監督を行う。
 - ・ 上記5施設に帰属する教育職員、事務職員及び研究技術職員について、共同研究センター（仮称）へ部署変更し、施設等の状況に応じた流動的配置を行い、かつ兼務も可能とする。
- (3) 新規補助事業への取組み
- ・ 平成25年度からの新規補助事業として、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業2件（法人常務会了承済み）を申請して研究活動の活性化を図る。
 - ・ 大学院分野の改組に伴う新分野の創設に伴う臨床系研究スペースの確保拡充し、研究者の意識啓発を図る。
- (4) 研究の継続および活性化
- ・ 特別補助関連支出（教員の海外派遣（旧：海外研修派遣支援・大型設備等運営支援）、学術研究振興資金、学内研究費支出（共同利用研究施設維持費、教育研究用ソフトウェア）、研究助成費支出（日本医科大学賞、丸山記念研究助成金、若手研究奨励金）、特殊研究用機器備品費支出（文・施・設）について、ほぼ前年度と同額で予算化し、研究活動の継続と活性化を図る。
- (5) 補助金および研究支援に関する業務の一元化
- ・ 大学事務局の業務分掌を見直し、補助金および研究支援に関する業務を研究推進部に一元化し、事務の効率化および適正化を図る。
- (6) 競争的研究資金の獲得強化
- ・ 研究部委員会を中心として、科学研究費補助金を始めとする競争的研究資金獲得について、教員の意識啓発を促し、前年度を上回る申請及び採択の各件数の増加を図る。
- (7) 公的研究費に関する啓発
- ・ 科学研究費助成事業（科研費）の基金化等の制度改革を踏まえ、適正な予算執行を図るための「公的研究費（直接経費）取扱要領」等の遵守及び研究者に対する公的研究費に関する啓発を推進する。
- (8) 学術研究に関する諸規程の整備
- ・ 学術研究に関する諸規程を整備し、共同研究および受託研究等の一層の促進を図ると共に、適正な事務処理を推進する。
- (9) 知的財産推進センターとの連携
- ・ 知的財産推進センターと連携し、産学官連携事業の一環としての共同研究および受託研究の一層の推進を図る。

4. 学生支援

(1) 奨学金貸与枠の拡大

- ・ 平成 25 年 4 月より日本医科大学奨学金貸与規則を一部改正し、新入生は入学試験成績を以て選考対象とし、希望する学生の入試成績上位者から順に貸与できる制度を導入して優秀な学生の入学促進を図る。

(2) 被災学生に対する授業料の免除

- ・ 東日本大震災で被災した学生に対する授業料を免除し、経済的な負担の軽減を図る。

(3) 施設および設備の見直し

- ・ 医務室等の学生が健康面において安心して勉学に励むことのできる環境整備を行う。
- ・ 平成 26 年 4 月に保守期間が満了する現行の図書館システムの更新を実施し、学生の学習効率の向上を図る。

5. 管理運営

(1) 新丸子校舎に係る移転計画の推進

- ・ 法人の中長期計画に基づいた武蔵小杉地区の再開発事業の一環として、前年度に引き続き、今年度も新丸子校舎の移転計画を推進する。併せて、日本獣医生命科学大学に設置予定の合同教育棟（仮称）の建築計画および現日本獣医生命科学大学図書館の両大学共同利用に向けての整備計画についても、更なる検討を図る。学生が課外活動を行うのに支障を来たすことのないように配慮した代替施設の確保に向けた対応を推進する。
- ・ 一昨年度より開始した合同教育棟（仮称）建設に係る募金活動について、目標額の達成に向けた全学的な活動を展開する。

(2) 広報活動の強化推進

- ・ 学習意欲のある質の高い学生を安定的に確保することを目的とした学生募集活動を推進すると共に、大学説明会（オープンキャンパス）、大学パンフレット、DVD等の広報媒体の見直しを行い、受験生のニーズに合わせた対応を図る。
- ・ 文京アカデミー（文京区）主催の市民講座に参画し、3大学連携（日本獣医生命科学大学、明治薬科大学、日本医科大学）公開講座を継続開催し、小中学生への自然科学に対する関心を引き寄せ、併せて本学の広報活動を実施する。

(3) 情報関連の整備推進

- ・ 学内 PC に対するネットワーク接続管理機であるネットアテストの保守期限満了に伴う代替更新を行い、違法不適切な学内 LAN 利用および情報漏洩の抑制を図る。
 - ・ 学内 LAN から危険度の高い不適切サイトへの通信制御システムである WEB フィルタリングの保守期限満了に伴う新規購入を行い、学内 LAN のセキュリティ向上を図る。
- (4) 事務管理システムの開発
- ・ 事務処理の効率化および学事業務の強化充実を目的として構築導入した学事システム（入試、教務、大学院、学納金、奨学金）の保守契約による安定運用と必要に応じた機能改善を図る。
 - ・ 共用試験管理（CBT、OSCE）、学籍原簿電子化、論文博士外国語試験管理、医学会会員・収支管理等、関係システムの機能充実に向けた検討を推進する。

6. 連携事業

- ・ 国内連携大学との各種協定内容の具現化を図り、共同研究、共同シンポジウム、大学院講座、大学院生の受入等を積極的に推進する。

7. 国際交流

- ・ 教育カリキュラムにおける海外臨床研修を始めとして、交換留学や教員の交流等、海外提携校との相互関係の強化を図る。

8. 財務関係

- ・ 法人財務部が提示する目標収支差額の達成に向け、帰属収入に見合った消費支出とすべく、法人全体の財務体質の安定、健全化に寄与することを念頭に置いた適正な予算管理および執行を図る。
- ・ 入学検定料については、積極的な大学広報活動を展開して受験生の大幅な確保を推進し、収入増加を図る。
- ・ 特別寄付金については、前年度に引き続いての新丸子校舎の移転に伴う合同教育棟（仮称）の建設に向けた募集活動の推進、茨城県等を始めとした地域医療支援システム講座設置協定活動を推進し、収入増加を図る。

国庫補助金については、教育研究経費（補助対象経費）に含めても差し支えない支出項目および区分経理の見直しを行い、収入

増加を図る。

- 受託研究については、更なる教員の意識啓発を推進し、契約件数の増加に伴う収入増加を図る。
- 教育研究費（大学院医学研究科特別経費）については、各分野への配分基準および選考方法の見直しを行う。

3. 日本獣医生命科学大学

1. 事業計画の概要

日本獣医生命科学大学は創立 132 周年を、また大学院は創立 51 周年を迎えた。本年度（平成 25 年度）は、その歴史と伝統に相応しい実力を備えた大学として、大学力、教育力及び臨床力の飛躍を図りたいと考えている。

創立 130 周年記念事業の継続的实施を図るとともに、中教審の求める学士力の向上や学生支援等の諸課題の対応に教職員、同窓生及び父母会との連携を強化、さらに法人との絆を強め、法人の健全な運営やアクションプラン 21 事業の遂行を積極的に協力したい。同様に、本学の建学の精神・教育理念に基づき教育、研究及び臨床活動を永続的に発展させるため、法人傘下の日本医科大学と運命共同体として創造の道を歩む覚悟である。

また、昨年 7 月に着工した新校舎〔合同教育棟(仮称)〕の平成 26 年 3 月竣工に合わせ、日本医科大学基礎科学課程の武蔵境キャンパス移転、並びに動物科学科、食品科学科、獣医保健看護学科及び事務部門の移転を教職員は相携えて円滑に推進する。

2. 教学運営体制の整備

(1) 自己点検及び自己評価制度の定着

- 自己点検及び自己評価の体制（自己評価委員会を中心に）を有効に機能させ、発展的な改善・改革の実行性を確保する。
- 日本高等教育評価機構からの認証評価結果を服膺し、継続的な改善を推進する。
- 新たに策定された認証評価基準(第 2 サイクル)に適合するよう大学運営の見直しに努める。

(2) 危機管理体制と危機対応能力の向上

- 防火防災管理委員会及び防災会議を中心に、災害への備え方及び緊急時の対応策の検討等とともに学生及び教職員の危機意識の啓蒙に努める。
- 防災マニュアルの作成、大規模防災避難訓練の実施

(3) 入試広報センター機能の強化

受験生募集に関する業務の強化を図るとともに、業務を拡充し教育・研究・社会活動等を広く学外に公表するための広報戦略を展開することで、本学に対する認知度及び大学ブランドイメージの向上に努める。

(4) 保健センターにおけるサービス機能の充実

常勤看護師1名体制のため、出張、休暇等の看護師不在時における業務（看護師）の外部委託を検討し、サービスの向上を図る。

(5) 獣医学教育イノベーション推進室の設置

獣医学部獣医学科に獣医学教育イノベーション推進室を設置し、文部科学省主導による「新獣医学の教育改革(獣医学コアカリキュラムの設定)」を見据えた「共用試験(OSCE・CBT)等」の実施に向け、段階的に準備を行う。

(6) 産業動物臨床教育体制の整備

新獣医学教育改革の一環として、富士アニマルファームに産業動物臨床施設を整備し、産業動物実習の拠点とする。

3. 教育関連の実施計画

(1) 学部学科及び大学院専攻科の入学定員の変更に関する教育研究施設や教員数等を再検討する。獣医学科の定員変更については、地域獣医療支援を目的として、農林水産省、文部科学省、日本獣医師会等と継続協議を行う。

(2) 獣医療技術専門職(動物看護職及び獣医技術士)の公的資格(免許)制度の制定を、家畜伝染病予防法の改正趣旨に沿って推進する。

(3) 獣医保健看護学科に、動物看護師有資格者(任意資格)の生涯教育及び公的試験を配慮した専攻科(夜間)の設置を検討する。

(4) 就職支援の強化、キャリア形成に関する教育プログラムを策定し、就職支援活動の強化を図る。

(5) 大学院連携協定に基づく講義の交換(単位互換)、食育、動物福祉等、地域社会支援型の公開講座等を推進する。

(6) 大学院生による教員の教育評価を実施する。

(7) 研究者の研究情報(ReaD データ)の一元管理を知的財産推進センターと連携して実施する。

(8) 富士アニマルファームの活性化、産業動物教育専門教員の養成を図る。

4 研究関連の実施計画

従来型の競争的資金のほか、本学の専門性を活かした産官学連携による外部研究資金の獲得を目指す。

(1) 獣医学領域で初のトランスレーショナルリサーチセンターの設立を目指し、「(新)戦略的研究基盤形成支援事業(文部科学省補助事業)」に申請する。文部科学省が「新獣医学の教育改革(獣医学コアカリキュラムの設定)」で求めている大学院附置研究施設の代替になると同時に外部研究機関との共同研究の拠点、また、糖尿病、がん等に対する特殊外来として、動物医療センター機能の一部を代替す

ることが可能となる。

- (2) 農林水産物及び関連食品の機能評価等の基盤技術開発を推進する。
- (3) 日本医科大学との共存を効果的に活用し、鳥インフルエンザ、BSE、口蹄疫等の人獣共通疾患について、診断法及びリスク管理の効率的な技術開発を推進する。
- (4) 自治体及び地域住民と連携し、野生動物保護、被害対策等に関する教育研究体制の充実を図る。

5. 国際交流・連携

本学からの海外留学、海外研修及び留学生受け入れ等、国際交流の積極的な支援を推進する。

- (1) 海外学術交流協定校の専門性を生かした共同研究、教職員・学生の相互交流、学生の海外研修派遣等の取組みを強化する。
- (2) 海外留学奨学金貸与制度を新設し、海外実習プログラムに参加する学生に対して、交通費・滞在費等について支援（貸与）する。
- (3) クイーンズランド大学（オーストラリア）に所属する海外在住の客員教授を国際交流委員会の外部委員に任命することを検討し、相互交流及び海外実習プログラム等の実施に則した設計を行う。
- (4) 発展途上国に視点を置き、特に食料問題の未来に発展的提案を試みる当該諸国と提携し、海外の食料・栄養問題を地球規模で検討するセミナーの開催を検討する。
- (5) 韓国の協定校候補である国立忠南大学について実地調査を行う。

6. 社会貢献と連携事業

地域住民の生涯学習の場として、連携強化を図る。

- (1) 総合文化講座・寄付講座・遊学講座・父母講座、大学公開講座の継続
- (2) 5大学共同教養講座・講演会
- (3) 動物とのふれあい教室・親子乗馬会
- (4) 介在療法としての障害者乗馬の実施
- (5) 武蔵野地域自由大学(継続)
- (6) 三鷹ネットワーク大学(継続)
- (7) 多摩ネットワーク大学(継続)
- (8) 連携大学院(継続)

7. 施設設備の整備計画

- (1) 合同教育棟（仮称）建築計画の推進
 - ・新校舎建設
 - ・AV機器の整備及び備品等の購入

- ・実験機器購入
 - ・学内LANネットワーク等の構築
- (2) 合同教育棟（仮称）竣工に合わせ、日本医科大学基礎科学（教養課程）移転に伴う諸課題の解決に努める。
 - (3) 図書館（B棟）の拡張・改修工事及び設備備品を整備し、日本医科大学と日本獣医生命科学大学の共同利用の準備を進める。
 - (4) 動物科学科、食品科学科及び獣医保健看護学科の研究室及び実習室並びに学長室、事務部等の合同教育棟（仮称）への移転（平成26年3月中旬より）に係る準備を進める。
 - (5) 体育施設（グラウンド・馬場等）の移転計画及び用地購入等について、(法)東京大学と継続協議を行う。
 - (6) 省エネルギー推進事業の推進体制を構築し、省エネ対策の調査研究を行う。
 - (7) 動物医療センターの老朽化した高額医療機器の計画的更新を図るため、X線CT装置一式（64列）の整備を検討する。
 - (8) 附属牧場施設で老朽化し倒壊の危険性がある事務室及び畜舎の建替えに伴う諸課題（借地、違法建築、農地転用手続き他）の解決に努め、早急に建替計画を検討・立案する。
 - (9) 附属牧場の老朽化した備品（車輛）の更新を図るため、普通車両RV（購入後13年）等の段階的整備を検討する。

8. 管理・運営

- (1) 動物医療センターの診察活動を強化し、受診動物の増加戦略として、動物診療施設の連携拡大(特に同窓生)、社会的認知度の向上に努めるとともに収支改善を目途として、臨床専任教員制度の導入を検討する。
- (2) 事務職員の大学運営参画の推進を図るとともに、円滑な業務遂行と次代を担う事務職員の育成を図るため、SD活動の活性化に努める。

9. 財務関係

- (1) 創立130周年記念事業として合同教育棟(仮称)の建設、馬場の移転、グラウンドの整備等、教育研究施設整備の諸案件を継続実施するとともに、これらの資金確保にむけ寄付金募集を実施する。
- (2) 附属事業収入や外部資金獲得の強化、主要経費の効率的活用を図り、大学財政の健全性を維持した予算とする。
 - 1) 資金収支予算

資金収入額	52億円	・	資金支出	41億円
-------	------	---	------	------
 - 2) 消費収支予算

帰属収入額	44億円	・	消費支出	37億円	・	消費収支差	7億円
-------	------	---	------	------	---	-------	-----

4. 日本医科大学付属病院

1. 収支計画

(1) 入院収入

患者支援センターを中心とした入院患者の効率的支援
退院支援、ベッドコントロール等の業務の強化を行なう事により、病棟稼働率の向上、平均在院日数の短縮となる活動を行う

(2) 外来収入

紹介患者の獲得
医療連携部門を中心に、病診連携、病病連携を強化、紹介患者のスムーズな受入と診療を実施と患者数の確保
午後診療の充実
一般午後診察を拡充する事による患者数の確保

(3) 医師支援業務の充実

医師事務作業補助業務の拡充
医師事務作業補助業務の拡充による医師の事務作業等の負担を軽減する事による診療に係る体制の充実を行う

(4) 医療材料の採用の厳格化・徹底化、納入価の低減化

医療材料の新規採用に際しては、適正化委員会で申請理由、コスト試算を十分吟味する等、審議の厳格化を図り、且つ、価格交渉に努めて納入価の低減化を図る

(5) 医薬品の価格個別交渉の推進と後発薬品導入の推進による医薬品購入価格の抑制化

4病院合同による単品単価交渉と後発薬品導入による医薬品購入費の低減化を中央薬事委員会、管財部資材課とともに共同で取り組む

2. 教育活動

No.1

放射線科	研修医・学生セミナー(研修医及び学生に対する画像診断の基礎を中心に最近のトピックまで専門医が解説)
診療放射線技師	診療放射線技師学生の実習受け入れ (帝京大学, 日本医療科学大学, 中央医療技術学院, 東京電子専門学校, 城西放射線技術専門学校)
形成外科	学生へ指導する教材を揃え、人員や予算を学生教育に使用する 研修医教育: セミナーやミニレクチャーを開催し研究や臨床活動における基礎的知識を増加させる
神経内科	コース講義においては、エッセンシャルミニマムを中心に全般の知識、バックグラウンドから理解できるように指導する。 臨床実習では個々の学生に患者を実際に受け持たせ、各々の病棟担当医が専任指導を行ない、教授、准教授、講師、病棟長、病棟リーダーを含めた症例検討会を随時行い指導する 研修医および入局者増加を目的としたセミナーを開催する
腎臓内科	コース講義では、エッセンシャルミニマムを中心に全般の知識・背景から理解できるよう指導する 臨床実習では、個々の学生に患者を受け持たせ、病棟担当医が専任指導を行ない、教授・准教授・講師・病棟リーダーを含めた症例検討会を随時行なう 研修医および入局者増加を目的としたセミナーを開催する
がん診療科	がん診療・化学療法・放射線療法に関する講習会の開催 外来実習生の受け入れ
緩和ケア科	研修医の受け入れ増 緩和ケア研修会の開催 臨床実習の受け入れ がん診療連携拠点病院として連携している区東北部(足立、荒川、葛飾)からの緩和ケア研修の受け入れ
眼科	臨床実習学生へのウェットラボ実習の充実
呼吸器外科	BSLの胸部画像読影の強化・プレゼンテーションの実施・結紮の練習・ドライラボにおける胸腔鏡実習 ブタなどの動物を使用した手術の実技演習・画像シミュレーションソフトを用いた手術演習・大学院生に対する研究計画立案書作成指導
呼吸器内科	国立がん研究センターへの研修・国立循環器病研究センターへの研修・NIH への研修
乳腺科	コース講義の充実・OSCE教育の充実・臨床実習のさらなる充実
泌尿器科	内視鏡専門医の養成 基礎研究の推進
高度救命救急センター	日本医科大学学生への臨床教育充実化 学内外の医学生の積極的な受け入れる 救命士学部(国士舘大学、東亜大学など) 薬学部学生、看護学生などの受け入れ 文科省、厚生労働省など競争的資金獲得の促進 大学院生、研究生の基礎研究、臨床研究の活性化 初期研修医への臨床教育
再生医療科	看護学生への勉強会実施、実習受け入れ増 留学生受け入れ(アラブ首長国連邦より国費留学生受け入れ予定) 専門医、学生、研修医対象治療見学実施中。他大学学生の見学実施中(随時) 米国留学教育体制の確立(本年度1名が留学予定) 看護師へのフットケア実践指導
遺伝診療科	臨床遺伝専門医研修施設として、学内外からの研修医の受け入れ お茶の水女子大学からの認定遺伝カウンセラー研修の受け入れ がん診療センター 家族性腫瘍外来の開設に伴う連携 国立がん研究センター東病院との連携
総合医療センター (総合診療科・救急診療科)	外来実習生の受け入れ ※BALにおける選択科目としての受け入れ 他大学学生の見学、休みを利用した短期研修の受け入れ 臨床病態学 講義 (6年時学生に対する、国試レベルの臨床問題を用いた病態生理の解説) その他の国家試験対策の支援

放射線治療科	がんプロフェッショナル育成プランにおけるe-learning講義ビデオの作成
整形外科	専門医育成コースを設立
内分泌代謝内科	日本糖尿病療養指導士認定機構により認定されている糖尿病診療従事者のためのセミナーを4月に開催予定。
	第45回日本動脈硬化学会総会・学術集会を7月に開催予定。
	日本糖尿病学会第51回関東甲信越地方会を平成26年1月に開催予定
	学会発表(学生、研修医部門)
血液内科	教室内での教育活動(症例検討会、抄読会、BSL教育)
女性診療科・産科	いわゆる屋根瓦方式クリニカルクラークシップの確立
脳神経外科	新規研究事業の開始(動物実験)による、学生の研究への参加
	オンラインを用いた教育データ、ビデオ等へのアクセス 簡便な教育情報へのアクセス
	科のミーティング(学生も参加)をオンライン化し、議論を活発化する
	シミュレーションモデルによる手術体感
	模擬問題集と解説をオンラインでアクセス可能とする
	脳神経外科版教育ビデオ(MANAVEE)の構築
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	シラバスの策定、国家試験対策としての授業形態
	教育スタッフ会議年3回、毎年のシラバスの改訂、国家試験の解析

3. 研究活動

No.1

放射線科	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業: 汲田伸一郎
	難治性膵がんに対する革新的膵灌流療法の開発と臨床応用に関する研究: 村田智
	デュアルエネルギーサブトラクション法によるマンモグラフィに関する研究: 村上隆介
	3次元MRIを用いた心筋線維化の評価: 天野康雄
	高温温熱灌流療法の開発に対する研究: 村田智
	64列MDCTにおける被曝線量、造影剤使用を十分に減少させた撮影法の確立: 町田幹
	ガリウムSPECT-CTによる心サルコイドーシス診断能の評価: 福嶋善光
	肝臓がんに対する門脈逆流式閉鎖循環下肝灌流療法の開発: 小野澤志郎
慢性透析患者における冠動脈壁と腹部主要動脈壁石灰化のCTによる検討: 日高史貴	
放射線治療科	ケロイドに対する術後照射における高線量率小線源治療装置を用いた新法の普及
形成外科・美容外科	臨床・基礎研究ともに創傷治癒および再生医療の研究を行っている。幹細胞を使用した血管・骨・軟骨再生、また難治性潰瘍に対するサイトカイン治療、力学治療、癬痕に対する多角的な外科的治療の開発を行っている
神経内科、腎臓内科	神経内科: 脳虚血急性期の病態と治療の研究、新規脳保護療法の開発、とくに骨髄単核球移植の神経再生・脳保護効果の検討および臨床への応用
	腎臓内科: IgA腎症に対する口蓋扁桃切除およびステロイド治療法の臨床的検討、水電解質異常の診断法と治療効果の検討 新しい人工腎臓の開発
リウマチ科	1. 昨年度に引き続き革新的に進化しているリウマチ治療に使用される各種生物学的製剤の治療効果と安全性について豊富な症例のデータを収集・解析し発信していく
	2. 高齢社会で重要性を増す関節老化のメカニズム解明とサプリメント、ハイパーサーミアを用いたアンチエイジング法の開発研究を行う。
	3. 関節リウマチ治療における脂質代謝、栄養との関連について
	4. 抗加齢に有効な健康食品としてのグルコサミン
眼科	水素ガスの手術応用に関する基礎研究および臨床試験にむけた準備 眼炎症疾患に対する生物学製剤応用の拡大・ドライアイ治療の基礎研究など
呼吸器外科	新たな胸腔鏡手術のための医療機器開発、新たな内視鏡治療装置の開発、小型肺腺癌に対する次世代型内視鏡治療法の開発
	アンチエイジング遺伝子Klotho発現と肺癌の予後との関係、Klotho遺伝子の薬剤感受性メカニズムの解析、Klotho遺伝子と癌浸潤能との関係について
呼吸器内科	肺癌の先端的個別化治療
	肺線維症の新治療法の開発
	肺癌の支持療法
乳腺科・	乳腺科: 乳癌化学療法のQOL向上に関する研究。がん探知犬を用いたにおいによる乳癌診断の研究。 乳腺科: センチネルリンパ節生検に関する研究。乳癌化学療法の副作用軽減に関する研究。
泌尿器科	癌治療における基礎研究 新規手術法の開発
遺伝診療科	本邦特有の周産期型低フォスファターゼ症における胎児治療に向けた基盤構築と病態解明 医療現場でファーマコゲノミクス情報活用への課題解決に向けた学際的アプローチ
がん診療科	膵癌に対するMDA/IL24を用いた新規遺伝子治療の開発
脳神経外科	脳腫瘍、下垂体腫瘍の細胞／生理学／組織学的研究 視覚再建プロジェクト(生理学等との共同研究)
	脳動脈瘤疫学研究(脳外科)
	マイクロサージェリーロボット技術開発 (脳外科)
東洋医学科	外来患者数も年々増加し、現在は年間8000名にならんとする状況となった。また、研修医も毎月2名以内に制限している状況において、ほぼ毎月2名ずつの希望者があり、年間20名にならんとする状態。この研修医の中には鍼灸を学びたいと希望者もいるが、鍼灸の教育をすることができない。もう少し外来患者を診察し、研修医教育のできるスペースが欲しい
再生医療科	高度先進医療承認課題「骨髄幹細胞による血管再生治療」(継続)
	高度医療申請課題協力病院「徐放化bFGF血管再生治療」(継続)
	外来でのマゴット治療(継続)
	体外衝撃波による血管再生治療(高度医療申請予定) 徐放化多血小板血漿による難治性潰瘍治療(H24科研費採択課題: 準備中)
消化器内科	逆流性食道炎、HP除菌療法、消化管運動機能障害、小腸病変(腫瘍)、NSAIDs起因性小腸炎、大腸腫瘍増殖因子、難治性腹水、ウイルス性肝炎、癌化学療法の基礎的・臨床的研究
整形外科	臨床応用可能な基礎研究を発展させる

内分泌代謝内科	インスリン産生腫における成長ホルモン分泌促進ペプチドによるインスリン分泌調節
	新規モデルマウスを用いた高脂肪食誘導性耐糖能異常における疾患感受性規定因子の解明
	動脈硬化性疾患の発症における食後高血糖の意義:新規耐糖能異常マウスを用いた解析
	糖尿病の動脈硬化予防のための縦断的研究ーサロゲートマーカーの重み付け
	動脈硬化病変の形成過程におけるリン脂質フォスファチジルセリンの病態生理学的意義
	リポ蛋白の低酸素シグナルへの関与と脱メチル化酵素発現へ影響
	原発性アルドステロン症における超選択的副腎静脈採血の有用性
	リポ蛋白組成と血管内皮機能、糖尿病性腎症の関係ーnon-HDL-Cを中心とした検討
	自然発症2型糖尿病モデルマウスの表現型と遺伝子解析。
	急性冠症候群患者における遺伝性高コレステロール血症の合併率に関する検討
	FAME研究(家族性高コレステロール血症に対する脂質低下療法の有効性および安全性に関する調査)多施設共同研究
	EWTOPIA75(高コレステロール血症を有するハイリスク高齢患者に対するエゼミチブの脳心血管イベント発症抑制効果に関する多施設共同無作為化比較試験)
	SLIM研究(Sitagliptin effect on lipid and glucose metabolism study)多施設共同前向き無作為比較試験
STREAM研究(Sitagliptin effect on lipid and glucose metabolism study)多施設共同前向き無作為比較試験	
糖尿病を合併した高血圧症例に対するオルメサルタン の降圧持続性と動脈硬化および内分泌代謝機能への影響に関する検討。ランダム化平行群間比較試験	
造血器腫瘍の発症、進展、再発に関する分子生物学的および細胞生物学的研究。造血幹細胞移植療法 の改善に関する研究。腫瘍免疫に関する研究。骨髄増殖性腫瘍の発症機序と病態に関する研究。骨髄不全症の発症および病態に関する研究。	
血液内科	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	アレルギー免疫学、内耳機能解析、頭頸部腫瘍治療データ解析、嚥下・音声学
女性診療科・産科	不育症新規バイオマーカーの開発、
	オーダーメイド治療を目指した子宮内膜症治療戦略の策定
	腹腔鏡新規術式の開発
	子宮体癌の腹腔鏡下手術
	周排卵期の分子メカニズムの解明
卵子提供による妊娠の長期予後調査	
総合診療科	救急患者に対するトリアージ体制の確立。感染症に関する疫学調査。高齢化社会の地域連携に関する研究。
救急診療科	東京都における救急搬送困難症例の受け入れとその問題点の検討。
	救急、初診外来における効率的な情報処理システムの構築
	高地登山者に対する健康診断、健康管理。 卒後教育に関するアンケート調査。
高度救命救急センター	本邦の外傷学、救急・集中治療学、災害医学をリードしてきた自負に基づき臨床並びに基礎の両面から研究活動を行っていく。当教室の研究テーマを「ショックに続発する臓器障害発生の機序解明」と設定し、外科、脳外科、整形外科、集中治療、熱傷、災害医学をサブスペシャリティーに持つサブグループが臓器障害発生機序解明という同じテーマに向け研究を行う。救急医学教室として系統立った研究方向性を持つことにより、効率よく計画的に成果を提示し、治療に反映させ、治療成績を改善することを目的としている。さらに臨床研究の成果をより理論的・科学的に補強するため、基礎研究を充実させ、臨床・基礎研究の2方向より目的の達成を目指す。

5. 学生支援活動

緩和ケア科	本学4年生に対する緩和ケア講義 本学5年生に対する緩和ケア臨床実習
呼吸器内科	東邦大学大学院生との共同研究
高度救命救急センター	学内外の医学生の積極的な受け入れ(BLS以外) 学生アドバイザー、第6学年特別位のチューターとして学生の支援 クラブ活動の部長として医学部学生を支援
総合診療科	体調不良の学生の診察、健康問題のある学生の相談 外来学習の担当 診断学実習 国家試験対策の支援 臨床に即した初診・救急医療の学習
放射線科	自主学习としての医学部4年生の「臨床配属」
形成外科・美容外科	外来見学や手術見学を推進する
再生医療科	他大学研修医、学生説明会施行 臨床教育指導強化
脳神経外科	学生の脳神経関係の学会への参加の機会を作る
血液内科	臨床配属での学生教育
泌尿器科	学生の手術手技研修への参加
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	夏休みにおける学生受け入れ支援、学生アドバイザーとして耳鼻咽喉科研修を受け入れ
遺伝診療科	日本医科大学学生講義（2年生 医療倫理学;渡邊） 日本医科大学学生講義（4年生 臨床遺伝コース;島田, 右田, 渡邊, 三宅, 堺） 臨床遺伝専門医研修施設 研修生の受け入れ お茶の水女子大学 認定遺伝カウンセラー研修施設 大学院生(修士課程)の受け入れ 信州大学 委嘱講師（渡邊） お茶の水女子大学 非常勤講師（渡邊） 臨床遺伝専門医制度委員（渡邊） 日本人類遺伝学会 教育推進委員会委員（渡邊） 日本遺伝カウンセリング学会 教育委員会委員（渡邊） 日本人類遺伝学会 薬理遺伝学委員会委員長（渡邊）
呼吸器外科	ウェットラボの実習 ブタなどの動物を使用した手術の実技演習
女性診療科・産科	学会、研究会への参加

6. 国際交流活動

呼吸器内科	中国からの大学院生の指導
	中国からの留学生の受け入れ
	外国人講師によるセミナー開催予定
高度救命救急センター	引き続き海外からの交換BLS(ジョージワシントン大学など)を積極的に受け入れ、学生同士の国際交流支援を行う。 常に教室員の少なくとも1名は主として米国に留学させ、また留学先の研究者との交流を強化する
放射線科	第1外科、病理学教室と合同で韓国「延世大学校」膵臓チームとのカンファレンス
	指定校からの留学者受け入れ
形成外科・美容外科	海外から積極的に見学者を受け入れる
	海外から留学生を受け入れる
	海外研究室との共同研究の推進
	海外企業との連携強化
再生医療科	留学生受け入れ(アラブ首長国連邦より国費留学生受け入れ予定)
	米国留学教育体制の確立(1名が米国留学中)
	他国言語習得教育
脳神経外科	海外からの留学生受け入れ
	国際脳神経外科学会への多数の医師の参加、発表
	韓国脳卒中学会等での講演
乳腺科	マレーシア留学生(医師)の受け入れ(手術, 検査見学)
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Yonsei大学(韓国)との大学を含む研究、教育レベルでの提携、ルビー准教授による国際アレルギー学会
血液内科	外国人留学生受け入れ
遺伝診療科	外国人留学生の受入(ミャンマー, モンゴル, 中国)
腎臓内科	中国からの留学生指導(4月着任予定)
放射線科	第1外科、病理学教室と合同で韓国「延世大学校」膵臓チームとのカンファレンス
	指定校からの留学者受け入れ
女性診療科・産科	手術見学生の積極的受け入れ
整形外科	米国カリフォルニア大学アーバイン校との共同研究

7. 地域連携活動

No.1

附属病院	患者支援センターの機能・役割を充実させ、患者さんにとってより良いサービスの提供を行う。
	返書率100%を目指す。
	各科と共同し、小規模(10~20人程度)の講演会・研修会の開催をサポートする。
	がん診療連携パスを使用することに他する開業医等への啓蒙活動
	脳卒中パスの活用
	がん診療連携研修会の開催
緩和ケア科	がん診療連携パスを使用することに他する開業医等への啓蒙活動
	地域連携の推進
眼科	緩和ケアに関する講演会の実施
	従来から行っている病診連携型の千駄木眼科フォーラムの発展
呼吸器外科	地域連携の推進
	癌診療の地域連携の推進
	肺癌術後の癌診療連携パスの推進
	(株)富士フィルム社との共同研究
呼吸器内科	(独)日本原子力研究機構との共同開発
	地域連携の推進(足立区医師会との呼吸器勉強会の充実、荒川区勉強会の発足)
高度救命救急センター	製薬会社との共同プロモーション
	脳卒中地域連携パスの導入と推進
	ドクターカーの効率的運用による中央部医療圏の地域救急連携活動の強化
総合診療科	区中央部東京ルール期間病院としての活動
	地域紹介医を対象とした、講演会
	紹介患者症例検討会
	逆紹介医療施設との懇談会
	東京都中央部救急拠点病院としての活動
	全国大学病院総合診療科会議への参加
	日本救急医学会ER検討委員会への参加
	地域救急隊、所轄警察。福祉担当との会合
	救急外来における情報処理システムの開発
	地元救急隊、医師との間のダイレクトコール・情報共有システムの構築
地域医療機関との共同研究	
放射線科	地域連携の推進
形成外科・美容外科	地域連携の促進
脳神経外科	地域医師を対象として医療連携に関する脳神経疾患(脳卒中、脳腫瘍、脊髄)のセミナー
	市民公開講座開催(11月、東京都脳卒中協会)
消化器内科	消化器内科医療連携会(年2回開催)・消化器内科 おなかの教室(年3回開催)
血液内科	企業との連携による研究促進
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	橘桜会館でのアレルギー市民講演会主催、産学共同研究による社会貢献

内分泌代謝内科	糖尿病教室
	糖尿病診療従事者のためのセミナー
	日本医科大医療連携推進会
	糖尿病診療における医療連携構築を目指した会
整形外科	東京都糖尿病医療連携協議会
	地域連携の強化
遺伝診療科	講演会、セミナーの開催(4回)
	地域連携の推進(文京区・東京都)
	患者会との連携・支援(エーラスダンロス症候群, 低フォスファターゼ症など)
	日本遺伝カウンセリング学会雑誌 編集主幹 (渡邊)
	第10回遺伝子医療部門連絡会議大会長 (渡邊 平成24年)
再生医療科	日本人類遺伝学会, 日本カウンセリング学会等評議員(渡邊)
	新患・急患を待たせない診療体制の確立
	雑誌、TV紹介による地域連携の推進
	第2回 マゴットセラピー研究会開催(橘桜会館:7月)
神経内科	DDS再生治療研究会の発足(橘桜会館:12月)
	地域開業医との脳卒中や認知症に関する勉強会を通して連携を推進する
	主催学会における市民公開講座において脳卒中や認知症に関する啓蒙および広報活動を行う
腎臓内科	他大学・企業と連携した認知症診断方法の開発に関する研究
	地域連携の推進
	地区保健所や地区医師会との連携を行う
乳腺科	他大学・企業と連携した腎臓病・高血圧症の診断・治療法開発に関する研究
	退院後の地域連携のさらなる推進
がん診療科	がん診療連携拠点病院研修会の開催
	市民公開講座の開催
リウマチ科	第4回日本医大バイオリジクス合同勉強会の開催
	第2回千駄木関節リウマチ医療連携フォーラム開催
	第3回千駄木関節リウマチ膠原病セミナー
呼吸器内科	地域連携の推進(足立区医師会との呼吸器勉強会の充実、荒川区勉強会の発足、葛飾区医師会との連携)
	製薬会社との共同プロモーション
女性診療科・産科	市民公開講座の開講
	女性の健康週間への積極的な参加
泌尿器科	引き続きの足立区での泌尿器ネットワークへの参加
	葛飾区、荒川区、北区でも作成
形成外科	地域連携の促進

付属病院 6. 平成25年度 診療科別医療計画

診療科	項目	取り組む事項の内容、目標等	期待される効果、成果等	備考
第一内科	入院	カテーテルインターベンションやカテーテルアブレーションなどの検査に関してはクリニカルパス導入等により医療スタッフ負担そして医療資源の適正化に努め、更なる件数増加を目指す	入院診療の効率化、標準化	
	外来	入院前の外来検査の徹底	DPCにおける収支の改善、在院日数短縮による効率的運用	
	入院/外来診療	地域医療連携の強化(紹介、逆紹介)による新規患者受入れ	より重症・高度な治療を要する患者の受入れによる社会貢献	
神経内科	入院	救急患者を積極的に受け入れる 平均在院日数の変動を小さくする 脳梗塞患者の円滑な転院を図り効率的な運営に努める		
	外来	初診患者・救急患者を積極的に受け入れる 慢性期の患者の近隣医療機関への逆紹介を推進し、他院からの紹介を容易にする。 ウェブサイトを使った広報を強化する。		
腎臓内科	外来診療	外来診療枠の増加、専門外来の充実		
	外来検査等の推進	エリスロポエチン製剤など必要な薬剤の投与、RIなどの外来検査		
	紹介患者数の増加	地域の医師会、かかりつけ医との連携強化、専門外来の充実		
内分泌代謝内科	指導管理料	在宅妊娠糖尿病患者指導管理料の検討		調整中
	医師数	増員により患者サービスの向上を図る。		
呼吸器内科	外来診療の効率化	外来化学療法に適した投与方法の開発と実施、診療の経済性の理解		
	入院期間の短縮	がん診療センターベッドなどを用いた短期入院を繰り返せるプランの実践(病院としての運用効率化)		
	治験の獲得と実践	肺癌のアジアグローバル治験の実践、肺癌分子標的薬の治験、肺線維症の分子標的薬の治験などの実践		
	地域連携強化	足立区医師会との勉強会の充実、荒川区勉強会の実施、葛飾区医師会との連携、製薬会社との共同プロモーション	紹介患者の増加	
消化器一般・移植外科	手術件数の増加	目標 1,060～1,100件		
乳腺科	患者数の増加	新教授就任に伴う新規紹介患者への対応	紹介患者の増加	
	機器購入	手術室にガンマプローブ購入	円滑な手術運営(他科との機器のバッティング防止による手術時間短縮など)	
	機器購入	外来ブースにエコー機器を購入	円滑な外来運営(患者着替えや部屋移動無く検査を提供でき、診察時間も短縮)	
心臓血管外科	大動脈急性疾患	ネットワークを通じて入院要請のある大動脈急性疾患(急性大動脈解離、切迫破裂など)に対する対応を効果的に実行可能な対応できるようにする	手術症例数の増加	
呼吸器外科	手術件数の増加	肺癌手術症例数を48件、その他に肺手術を12件増加。		
	外来気管支鏡検査の増加	気管支鏡による生検を月に12回、年間144回施行。		
	外来レーザー治療の増加	外来で肺癌レーザー治療を年間20回予定。		
	在院日数、稼働率	パス導入により在院日数の短縮と病床稼働率の増加に取り組む。		
脳神経外科	救急診療の拡充	総合診療、救命センター、神経内科と協力し神経救急の強化	医局内活性化	当院脳神経外科の力を全体として高める
	脳血管障害部門の強化	脳血管障害部門を他の付属病院と共に強化	学生・医師に多様な疾患を経験させる	
	脳腫瘍・頭蓋底腫瘍部門の強化	脳腫瘍、頭蓋底腫瘍数を増加させる	学生・医師に多様な疾患を経験させる	
小児科	専門外来の充実	小児リウマチ・膠原病 教授の専門を生かして他では診療できない患者様の紹介受入れを積極的にすすめる。	紹介患者の増加	
	紹介率のUP	荒川区と新宿区と千代田区に3か所常勤医を派遣する病院を確保し当院への紹介率を上げる。		
	夜間救急の充実	今まで以上に夜間救急の受け入れをする。		
	地域の開業医の先生との連携強化	紹介状を含め連携を図る。		
眼科	外来	新規検査機器の導入	検査の充実	
	外来	外来検査員の増員	医師負担軽減により、より詳細な診療が可能	
	入院	さらなる病診連携による紹介手術患者の増加	紹介患者、手術の増加	

付属病院 6. 平成25年度 診療科別医療計画

診療科	項目	取り組む事項の内容、目標等	期待される効果、成果等	備考
女性診療科・産科	手術件数	過去のデータに基づいた手術稼働率の工夫。内視鏡手術件数増加に向けたさらなる効率を図る	手術件数の増加	
	クラークの雇用	クラークを増員することにより、医師の事務負担軽減とさらなる手術件数の増加が見込まれる。	手術件数の増加	
	分娩件数	東日本大震災、福島原発事故以来分娩の減少傾向が続いているが、当科の特徴である「不育症」治療から妊娠した妊婦の分娩対応などにより、適切な分娩の実施に努める。	分娩数の増加	
	子宮悪性腫瘍に対する内視鏡手術	子宮悪性腫瘍に対する内視鏡手術は、現在保険収載されておらず、先進医療を目指して症例を蓄積中。25年度中には規定の件数に至り、先進医療申請が可能となる見込み。		
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	入院	より多くの手術患者への対応 在院期間の減少	医療効率の上昇	
	外来	必要十分な検査数の増加	患者満足度の向上 ほか	
泌尿器科	入院・外来	無駄をなくしより効率的な診療を行う		
放射線科	CT/MRI/核医学/IVR検査件数	増加目標(年間):CT100件、MRI60件、核医学25件、IVR5件		
精神神経科	診療体制の整備	常勤医師の確保、初診診療体制の強化	初診患者、外来患者への適切な対応	
	地域連携の強化	地域医療機関との連携の強化、院内PSCの機能強化	紹介患者・入院患者の増加、ECT対象者の増加、適切な転院による病床利用の有効化	
	院内連携の強化	合併症医療体制の強化	合併症管理加算・リエゾン加算の算定、病床利用率の改善	
麻酔科	麻酔件数	手術件数増加のサポート	年間1,000件増の対応を図る	緩和ケアを含めた麻酔科医の増員が必要。
高度救命救急センター	入院	救命救急センター内の現状の所定ベッド数(41床)内で運営をし、かつ救急患者への応需のためには一般床の有効活用を行うことが重要。	周囲の救命救急センターの機能強化に伴い、当院救命救急センターへの患者収容依頼件数は以前よりは減少傾向にあるが、今後は、救急隊のほか、荒川区、葛飾区、足立区方面の医療機関と密接に連携し、重症患者の紹介増加に努め、積極的に受入れ対応していきたい。	ドクターカーの24時間稼働が可能な態勢整備を要望。
	外来	主として当科で入院加療した患者を対象とするという方針に沿って、外来患者への適切な対応に努める。		
リウマチ科	外来診療	医療連携、HPを通して新患患者を受け入れる。	20人/月の新患。	
	生物学的製剤の積極的使用	生物学的製剤を積極的に使用する。	患者ニーズへの対応。	
東洋医学科	鍼灸治療(保険外) 生薬治療(保険外) CT、MRIなどの検査依頼	鍼灸治療(全て予約制)、生薬処方、CT、MRI等の検査依頼を積極的に行う。	鍼灸、生薬という非常に独自性の高い、治療法を駆使することで患者さんのニーズに応え、満足度を上げる。またその中でより強い相互の信頼関係を築き、MRI、CT等の検査を駆使し安心・安全な医療をめざす。また、必要に応じ積極的に他科への紹介を行う。医師・患者の信頼関係こそが、医療の向上に繋がり、病院経営に貢献する。	
緩和ケア科	外来診療	緩和ケア科外来診療加算が新たに認定される予定。関係部署への情報提供し、紹介患者を増やす。	紹介患者の増加。	
	入院診療	緩和ケア診療加算を請求可能な事を関係部署に周知し、紹介患者の増加を目指す。		
がん診療科	外来患者	外来診療枠の増加、新規医師会・健診センターの開拓	外来診療態勢の整備	
	検査部門の充実	消化器内科・消化器外科への協力要請、OBIによる新規枠新設	検査の充実、外来患者数の増加	
	診療の効率化	医療クラークの導入		
総合診療科	増員・勤務時間帯の延長	休日診療アシストや24時間体制に向けて実診療時間帯を延長	救急患者受け入れ数の増加、患者のスムーズな受け入れ	
	宣伝・広報活動	定期的な勉強会・講演会を実施し、地域連携を強化する	紹介患者の増加	

武蔵小杉病院 5.武蔵小杉病院 平成25年度 診療科別医療計画

診療科	項目	取り組む事項の内容、目標等	期待される効果、成果等	備考
心臓血管・呼吸器・ 乳腺内分泌外科	外来	紹介患者数(転院を含む)の増加	患者ニーズへの対応、地域医療への貢献	手術枠の拡大が必要 緊急手術への対応力の向上が必要
	入院	手術件数の増加		
	救急患者	当科に該当する救急患者を積極的に受け入れる		
脳神経外科	手術・ 薬物治療	難易度の高い手術、術中局所薬剤投与症例を増やす 治療のプロトコール化、患者記入ノートの充実を図る	医局員のモチベーションを高める。分野のオピニオンリーダーとなる。 コンプライアンス遵守と副作用の早期発見を容易にする。治療効果向上が期待できる。	
	外来	効率良い診療、待ち時間短縮、初診枠の設定を図る	単位時間の診療人数の増加、患者満足度の向上が期待される。	
	小児一次救急	川崎市中部小児急病センター開設	地域住民・開業医からの信頼の獲得	
小児科	地域連携小児夜間・休日診療料 加算	地域の小児科開業医の協力を得て施設基準届出を図る	準夜帯患者数約 5,000名を見込む	
	小児心臓カテーテル	当院での小児心臓カテーテル・開心術の開始	他施設に紹介していた小児心臓手術を開始し、高度な小児医療提供の基盤を作る	カテーテル室の整備が必要； 外科とは協議済み
	新生児内科当直体制の整備	新生児科医による365日当直体制の確立	安心・安全な新生児医療が提供できる； 入院患者数の増加につながる	
眼科	1:多焦点眼内レンズ	先進医療登録に向けて自由診療にて10症例以上の執刀をする。	老視治療としての水晶体再建術を施行し、手術件数の増加を目指す。	25年2月から施行している。
	2:硝子体手術装置の購入	老朽化した硝子体手術装置の更新。	新しい機器を導入することにより安全な手術が施行できる。また、手術時間の短縮も期待され、手術症例の増加も期待できる。	
	3:ORTの増員	現状はORTの人数が少ないため、眼科検査の施行上、一部に制約が生じかねない状況にある。	検査の正確性の向上。 患者の待ち時間を短縮することができ、患者の満足度を上げることができる。	25年4月から増員の予定。
	4:眼底カメラの購入	現在の眼底カメラは老朽化しており、早期更新は必須事項。	正確な診断と検査時間の短縮が期待でき、検査回数も増加させることができる。	
耳鼻咽喉科	①嚥下発声	①当院入院中の患者さんを対象として、嚥下・発声機能の評価とリハビリも含めた治療法の立案。	①嚥下性肺炎の予防・治療と患者の自立・生活力向上。	①外来・電子スコープの更新を実現したい。 (既存の物も病棟処置室にて活用可能)
	②いびき・睡眠時無呼吸	②SAS診療の質的量的診療のレベルアップに耳鼻咽喉科も貢献する。	②PSG検査数の増加。耳鼻咽喉科手術症例数の増加。	
	③嗅覚と認知症	③認知症スクリーニングにおける嗅覚検査の実施数を増やす。	③嗅覚検査件数の増加とその他鼻疾患検査・手術の増加。認知症の早期発見に貢献。	③本来は嗅覚検査を院内の他の生理機能検査と 一体で行うことが望ましい。
皮膚科	外来および入院収入	総合病院皮膚科としての特徴を活かした診療の強化	入院、外来ともより多くの患者ニーズに応える。	皮膚科として地域の病診連携の会を定期的に開催。
		皮膚外科を得意とする医師の増員による手術件数の増加 皮膚悪性腫瘍の診断、治療のさらなるレベルアップとその宣伝		
		乾癬に対する紫外線治療やバイオロジクス投与などの専門的治療の強化		
泌尿器科	外来収入	医師の交替があっても、円滑な診療に支障をきたさないようにする。 外来患者、外来化学療法数を増やす。 画像診断、内視鏡診断を効果的に行う。		
	入院収入	積極的に手術目的以外の入院患者を受け入れる。 効率よく手術を行い、手術患者を増やす。 積極的に化学療法を行う。		
放射線科	MRI検査数	1日あたり20件を目標とする。		
	放射線治療患者数	1日あたり16件を目標とする。		
形成外科	外来手術室の活用	必要機材の洗い出しを行い、施行可能な術式の幅を広げる。	中央手術室における他科手術枠に余裕を持たせる。 柔軟な対応が可能な外来手術の活用で手術数の増加が見込める。	
	眼形成外科外来の開設	眼科と協力し、より質の高い診療を行う。 不足している手術機器の充実を整備する。	近隣の医療機関に開設を通知することで、紹介患者数を増やす。 より良好な手術結果を出すことで、紹介患者数を増やす。	
	保険請求方法の再検討(全科)	専属スタッフを置き、各科の保険委員と密に連携を取る	コーディングなど保険請求事務の向上。	
健康管理科	職員労災	針刺し事故などの労災についての診断、処置	職員の安全を図る。	
消化器病センター	手術	術式の定型化と効率化による手術件数の増加を目指す。	手術の安全性の向上、手術成績の向上が見込まれる。	手術室スタッフの充実が必要。
	内視鏡部門	検診事業の拡大と件数の増加を目指す。	新規患者の増加と手術症例の掘り起こしが期待できる。	川崎市胃がん内視鏡検診事業に参加、内視鏡の 院外予約を拡充。今後の検診増加が見込まれ、経 鼻内視鏡設備の拡充が必要。
	外来診療	紹介新患の増加と外来化学療法症例数の増加を目指す。	病診連携の充実と患者診療単価の増加が見込まれる。	外来クレークの配置により診療時間の短縮と効率 化、ひいては待ち時間の短縮、患者満足度の向上 が期待される。
精神科	チーム医療	緩和ケアグループ、リエゾン看護師、医療連携室等と連携	精神科領域はDPCにおいても出来高。コスト面においてもオフセット効果あり。	心理士が必要

6. 日本医科大学多摩永山病院

1. 収支計画

(1) 医療収入（入院）

- ① 7：1 看護の維持
- ② 診療科ごとの指標設定及び定期的な状況確認の継続
- ③ 科別定床見直し（共用病床削減）後の病床運用改善
- ④ 25年度中のNICU設置
- ⑤ 手術室運用効率向上の継続（診療科の実情に合わせた調整）

(2) 医療収入（外来）

- ① 午後外来の充実
- ② 総合診療科新設
- ③ 診療科ごとの指標設定及び定期的な状況確認の継続
- ④ プライマリーケア外来委員会を通じた、患者断り状況改善の継続
- ⑤ 更新されたCTの安定運用
- ⑥ 視能訓練士増員

(3) 調整増減収入

低査定率の維持

(4) 教育研究用機器備品

中央管理・共用部門（手術室・中央検査室・ME部・放射線科・内視鏡室等）の定期的な更新計画

(5) 施設修繕

- ① A・B棟ピーマック用冷却塔更新工事
 - ② 旧式エアコンの更新
 - ③ 厨房内改修工事
 - ④ 病室療養環境改善工事(NICU含む)
- } 省エネ対策と経費圧縮

(6) 厚生施設

院内保育施設の設置

2. 教育活動

- ① 多摩永山病院は、学生定員増加に伴いBSL実習生の増加が予測されことから、更なる指導医教育が必要となるため病院指導医のプログラムの作成と充実を図り、また施設の整備、学生受入システム等を構築する。

- ② 各診療科による教育活動への取組み

(1) 泌尿器科

B S L、研修医の教育

(2) 女性診療科

母と子のネットワーク連携施設を含めたチーム医療の推進による周産期管理の標準化とその向上

(3) 麻酔科

診療部長の定年に伴い、部長交代となる診療科の部長の教育に対する評価を明確にする

(4) 呼吸器・腫瘍内科

①基本的な呼吸器疾患の診断と治療が行えるように指導する

②がん患者に対する治療、特に抗がん剤化学療法と緩和医療について実地的に理解する

(5) 病理部

①カンサーボードによる術前、術後のカンファレンス

②病理解剖による系統的疾患の整理（C P C等の活用）

(6) 脳神経外科

B S L実習の講義補習

(7) 消化器科

①研修医に対するより良い臨床研修指導の実践

②日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会における臨床研修要綱の実践

3. 研究活動

(1) 泌尿器科

①尿路感染症の動向～特に薬剤耐性について～

②前立腺がん内分泌療法に伴う副作用～脂質代謝異常について～

③尿路結石のK U Bにおける解像度～体外衝撃波結石破碎における治療効果予測～

(2) 内科、循環器内科

①心房細動における心筋細胞内c y t o k i n e s及びS100蛋白の発現に関する検討

②慢性心不全患者におけるエイコサペンタエン酸の有用性とその機序に関する検討

③当院における慢性腎臓病の実態に関する検討④血中心血管疾患マーカーの臨床的有用性に関する研究

⑤生活習慣病、心血管疾患における動脈石灰華の病態に関する検討

⑥多摩地域における食塩摂取量と血圧に関する検討

- (3) 放射線科
 - ①心臓核医学の解析ソフト開発
- (4) 消化器外科・乳腺外科・一般外科
 - 大動脈モデルにおける臍島移植の免疫学的特異性に基づいた非侵襲的免疫寛容誘導法の確立
- (5) 病理部
 - ①分子標的療法のための病理診断材料の取り扱い =特に免疫染色方法に関する研究=
 - ②悪性中皮腫の早期診断法に関する研究
 - ③術中迅速診断のための迅速特殊染色に関する研究
 - ④細胞診断による悪性リンパ腫の低侵襲診断に関する研究
- (6) 脳神経外科
 - ①頸部頸動脈狭窄患者の診断と治療
 - ②頸部および腰部脊椎疾患に対する手術適応のさらなる基準作りの検討
- (7) 消化器科
 - 東南アジア諸国におけるヘリコバクターピロリ感染の差異
- (8) 皮膚科
 - 乳児皮膚炎の健診（1ヶ月児、3ヶ月児の皮膚の調査）
- (9) 麻酔科
 - ①疼痛治療として、侵襲的方法を確立させる
 - ②新しい吸入麻酔薬の作用を理解し、吸入麻酔法への応用を確立させる
- (10) 呼吸器外科
 - ①胸部悪性腫瘍における胎生期発生に関わる遺伝子発現と予後・薬剤耐性関係の分析
 - ②肺癌の脂質抗原に対する CD1 陽性 NKT の免疫システムの解析
 - ③間質性肺炎合併肺癌の予後と脈管侵襲の関連
 - ④Port Accessing Thoracic Surgery with CO2 insuflation による肺癌手術の有用性の評価
 - ⑤Port Accessing Thoracic Surgery with CO2 insuflation による縦隔腫瘍手術の有用性の評価
 - ⑥2cm以下の末梢性肺腫瘍の術中局在診断に関する技術開発
 - ⑦85才以上の肺癌手術症例の検討
 - ⑧胸腔鏡下手術を施行した病理病期Ⅱ～Ⅲ期肺癌のCBDCA+S1による術後化学療法の第Ⅱ相試験

5. 学生支援活動

- (1) 夏季・冬季実習（泌尿器科）
- (2) 学生インターンシップの受入（放射線科）
- (3) 臨床研修に関して積極的に取り組んでいく予定（外科）
- (4) 夏季脳外科実習
- (5) 夏季休暇中などの自主臨床実習を受け入れる（消化器）
- (6) 他大学クリニカルクラークシップの受け入れる（消化器）
- (7) 地域看護学校における消化器内科学の講義（消化器）

6. 国際交流活動

- (1) タイ国からの研修生の受入（病理）
- (2) 諸外国において慢性胃炎に関する臨床研究を行う（消化器科）

7. 地域連携活動

- (1) 多摩市スモールミーティング・地域の医師よりの希望演題にて講演、質疑応答（泌尿器科）
- (2) 地域医療連携連絡会開催（内科、循環器内科）
- (3) 2013 多摩永山皮膚科病診連携の会
- (4) 多摩市医師会との連携強化（外科）
- (5) 多摩地区の他大学、病院との連携強化（外科）
- (6) 市民公開講座の充実（外科）
- (7) 地域の耳鼻咽喉科医からの紹介患者の経過報告会開催（年3回）
- (8) 永山神経外科研究会
- (9) 医療連携講演・懇談会の開催
- (10) 新規連携医療施設の確保
- (11) 医療機関への訪問
- (12) 医療連携ニュースの充実
- (13) 多摩市消化器疾患懇話会の開催（年2－3回の予定）
- (14) NPO 多摩胃ろうネットワークの活動に地域基幹病院として参加する
- (15) 東京都の南多摩医療圏における肝炎対策事業に参画する
- (16) 多摩栄養サポート研究会に参画する

診療科	項目	取り組む事項の内容、目標等	期待される効果、成果等
内科、循環器内科	①近隣医療機関との連携促進	①内科・循環器内科病診連携の会(年2回) 簡易な紹介状(チェックリストなど)を作成、配布し、検診異常などの紹介を促す。	①連携強化、紹介患者増加。
	②心疾患検査の見直し	②心電図、超音波、ホルター心電図、などをセット化し、心疾患患者に実施、TWA、LPも活用。	②検査の充実。
消化器外科・乳腺外科・一般外科	①最新の高度医療を導入、最善の医療を提供。	①腹腔鏡下手術件数の増加	患者増加、手術件数増加。
	②他院で手術不能と診断された患者の受け入れ。	②HPおよび講演会でアピール	
	③医療の効率化	③クリニカルパスの更なる導入、システム、書類の簡素化	
	④医師数の増加	④医師の募集および勧誘	
	⑤患者サービスの向上	⑤待ち時間短縮、今以上に丁寧なIC	
脳神経外科	①外来診察枠拡大	①火曜日、水曜日に午後の外来を追加実施。	①外来患者サービス向上。
	②検査件数増加	②頸動脈エコーの活用。	②検査の充実。
整形外科	①病診連携強化	①近隣医療機関訪問を実施(25年より)	①患者ニーズへ対応、患者数確保
小児科	①新生児医療体制の充実	①NICU、GCUの開設(25年度内)	
眼科	①手術件数の増加	①老朽化した手術機器(白内障手術機器)の更新、医師の増員。	①手術態勢の強化。
	②外来検査数の増加	②新規検査機器の購入、視能訓練士の増員、医師の増員(OCT:光緩衝断層計 購入希望)	②患者ニーズに応じた診療の充実が図られる。
女性診療科・産科	①周産期救急の拡充	①地域周産期母子医療センター設置、セミオープンシステム「母と子のネットワーク」充実。	①救急搬送受入充実、入院充実、外来対応の軽減。
	②悪性疾患患者の増加	②放射線治療科、輸液療法室との協力強化。「母と子のネットワーク」連携施設(32施設)より、積極的にがん患者の受入。	②がん患者の増員
	③病診連携の強化	③年4回の病診連携懇話会、母と子のネットワーク協議会に東京都周産期医療協議会の南多摩エリア協議会を合体させ、参加施設の増加を図る。	③上記①②達成。
泌尿器科	①紹介患者獲得	①多摩市スモールミーティング 要望のある内容で近隣の先生方に講演。平成24年度は3回実施。	①紹介患者の増加
救命救急センター	①他科との連携	①呼吸器系患者の入院に対応、呼吸器外科への転科までに時間がかかるとは、連携して対応していく。	①院内態勢整備、迅速な対応による入院患者増。
呼吸器外科	①悪性胸膜中皮腫、肺癌(ALK、EGFR)の胸水貯留症例に対する診断および治療	①軟性鏡または硬性鏡を用いて全身麻酔または局所麻酔において胸腔内を観察、生検。	①検査の充実。
呼吸器・腫瘍内科	①外来診療拡張	①外来移転に伴い、外来診療枠を追加。	①患者ニーズへの対応。

7. 日本医科大学千葉北総病院

1. 収支計画

(1) 薬剤部

- ①病棟薬剤業務実施加算の取得のための人員確保と体制づくり
- ②抗菌薬適正使用のための TDM 測定拡大
- ③救急外来：中毒患者の迅速な検査の充実のための体制検討

(2) 内視鏡システムの更新、新規購入による検査数の増加

内視鏡システムの更新（1台）および新規購入（1台）（現在3台使用しているが、1台は10年以上経過し、いつ故障してもおかしくない状況である。3台での稼働はあまりに少なく、効率が悪い。最新の診断ができない）

(3) 上部・下部内視鏡スコープの購入による検査数の増加

最新の内視鏡診断および検査効率の改善

(4) ボトックス治療

上下肢痙縮に対するボトックス治療例の増加

(5) リハビリテーション料・急性期加算

理学療法士の増員

(6) メンタルヘルス科

- ①光トポグラフィ検査を週9例以上実施
- ②うつ病患者に対する修正型電気痙攣療法（mECT）の実施件数を増加させる

(7) CT検査数の増加

読影医、技師、看護師が増加によりIVRCTの有効活用が可能となるため、CT検査数の増加が見込める。

(8) 一般撮影検査待ち時間の短縮

老朽化した装置の更新によりFPD使用での撮影になるため、画質の向上、および検査スループット向上が見込める

(9) 外傷センターの体制整備

外傷患者収容数年間1200例、重度外傷患者収容数年間200例を目標とする

(10) ラピッド・カーの体制整備

現行の運用時間を延長して、地域の救急医療ニーズに答える

(11) 検査技術員増員

医療安全と収益の向上を担うVascular Labo稼働要員の増員

2. 教育活動

(1) 薬剤部

- ①病棟薬剤業務実施するにあたっての薬剤師合院体制の確立及び新人教
- ②チーム医療推進の対応

(2) リハビリテーション科

- ①脳卒中地域連携パスに含まれている機能的自立度評価法 FIM の教育講習会開催
- ②理学療法士、作業療法士、実習生受入れ

(3) メンタルヘルス科

- ①精神科専門医研修施設であり、研修医・専修医が専門医を取得できるよう教育に取り組む
- ②他大学心理学科大学院生の実習施設として、毎年 6-10 名受け入れている

(4) 救命救急センター

- ①HEM-Net ドクターヘリ搭乗医師・看護師等研修事業の推進
- ②厚生労働省事業としての医師・看護師研修制度による医師・看護師の受入増加を図る
- ③医師、看護師、医学生、看護学生等の受入増加を図る
- ④アジア各国からのヘリコプター搭乗医師等を受入れ、教育・研修を実施する
- ⑤印旛 MC 協議会事業として、救急救命士ならびに救急隊員病院実習を受け入れ、生涯教育を実施する

3. 研究活動

(1) 消化器内科

- ①治療抵抗性 GERD の病態に関する研究、食道運動異常の診断・治療に関する研究
- ②C 型肝炎の臨床研究

(2) メンタルヘルス科

- ①身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究(地域連携パスの開発)
- ②光トポグラフィー検査結果に対する新たな分析手法の開発
- ③抑うつ患者の光トポグラフィーを用いた検討、脳卒中後うつ病の病態に関する研究、うつ病患者に対する運動療法とアロマセラピー、外来患者のアドヒアランス調査など

(3) 救命救急センター

- ①交通事故と人身傷害に関する多角的研究
- ②AACN が起動するドクターヘリシステムの開発に関する研究

③ドクターヘリ事業の質の評価に関する研究

(4) リハビリテーション科

光トポグラフィー、SPECT を用いた脳機能評価、機能的電気刺激によるニューロリハビリテーション、機能的電気刺激と経頭蓋直流電流刺激を用いたニューロリハビリテーション、脳磁図の研究、脳卒中の diaschisis の研究

5. 地域連携活動

- (1) 市民公開講座（慢性肝炎、肝硬変の最新治療）
- (2) 市民公開講座（胸やけ・つかえ感の問題教室）
- (3) 公開講座として機能的自立度評価法講習会を開催予定
- (4) 公開講座として機能的電気刺激講習会を開催
- (5) 東京電機大学と脳磁図研究の連携が進行中
- (6) 脳卒中地域連携パスを通じて地域医療機関との連携を密にしてゆく
- (7) 当院、成田日赤、東邦佐倉病院を中心に、北総地区の精神科医による北総精神科医会を4ヶ月ごとに開催
- (8) 千葉県内の私立大学を中心に、地域の開業医の先生も参加してもらい千葉県うつ・不安研究会の開催
- (9) 総合病院精神科研究会、認知行動療法研究会、認知症研究会など多くの研究会に参加
- (10) 印旛、山武、香取地区の医師会会員と共に、地域災害対応能力の向上を図る
- (11) 北総、君津のドクターヘリ2機体制を更に一歩進め、ドクターヘリ広域医療圏を創成する
- (12) 県内・県外医療機関との更なる連携を図ると共に、研修医、医学生のリクルートを図る

8. 日本医科大学成田国際空港クリニック

1. 収支計画

(1) 外来収入

日帰り人間ドック事業。
企業定期健康診断。
毎週月・木曜日診療時間延長。

(2) 受託収入

航空機事故災害訓練に伴う空港スタッフへの教育・指導。
24時間救急患者受け入れ。
航空会社の飛行機搭載医療資器材管理・保管。

(3) 人件費

日当直医師派遣期間の拡大。
事務職員の勤務時間変更による時間外勤務手当の削減。

(4) 医療経費・管理経費・教育研究費

毎月予算内における達成率を管理し、効率的・効果的な業務体制及び診療材料費の節減などにより費用を削減する。

2. 教育研究費

インフルエンザ等感染症患者動向研究。
旅行者の疾病調査研究。

3. 学生支援活動

研修医受入れ（1～2名）定期的ミニレクチャーの実施。

4. 地域連携活動

地域医師会活動に参加し、幅広く医療連携の推進活動を行っている。
空港の諸関係機関との連携。

9. 日本医科大学腎クリニック

1. 収支計画

- (1) ベッド数に制約があり保険も包括化されていることから、単価の大幅な増加は難しい。付属病院だけでなく東大病院や、医科歯科病院、順天堂などからの患者の受け入れを積極的に進め、70名程度の患者の確保をめざす。
また消化器内科との提携で行っている、潰瘍性大腸炎に対するリンパ球除去の患者の受け入れを積極的に行っていく。
- (2) 増収と同時にコスト削減による増益を目指す。
- (3) 日本医科大学の付属施設であることから、通院患者さんの期待として、急変時の付属病院への入院や CT や超音波検査などの予約の簡便化などがある。しかし付属病院の透析ベッドの少なさのために入院できず他施設へ入院を依頼する事態が続いている。第2内科との連携を強めると同時に、女子医大東医療センターなど、他大学との連携を模索する必要もある。また電子カルテの導入に伴い従来行われていた医療連携室を通しての CT や超音波検査の予約ができなくなっている。付属施設としての強みを生かすためには腎クリニックにも、付属病院と接続された電子カルテの端末の導入を検討する必要がある。
- (6) 老朽化した透析用ベッドの更新
- (7) 老朽化した空調機の更新

2. 教育活動

- (1) 医学部4年の臨床実習で学生を受け入れる予定
- (2) 看護専門学校の臨床実習で学生を受け入れる予定
- (3) 日本透析医学会認定看護師の実習先として2名受入れている

3. 研究活動

- (1) 透析患者における ProBNP と心機能の相関について
- (2) 結節性病変を有する続発性副甲状腺機能亢進症に対する VitD3 パルス療法とシナカルセット併用療法の有効性について
- (3) エリスロポエチン製剤不応性貧血における鉄代謝について
- (4) 自己効力理論に基づく患者支援システムについて
- (5) カルニチン製剤と心機能について

4. 学生支援活動

各種実習を受入れ

5. 国際交流活動

- (1) 旅行や出張で海外で透析を行う場合の紹介を行っている
- (2) 海外からの臨時透析の依頼を受入れている
- (3) 海外からの施設見学を受入れている

6. 地域連携活動

- (1) 東京大学病院、東京医科歯科大学病院、順天堂大学病院、東京女子医大病院への患者の紹介や維持透析患者の受入れを行っている
- (2) 代々木山下医院、春口クリニックにシャントトラブルの患者を紹介
- (3) 搏慈会記念病院、都立大久保病院、女子医大東医療センター、さくら記念病院などに、入院患者の受入れを依頼
- (4) リハビリが必要な患者さんに対し、通所リハビリ施設を紹介している。
- (5) 送迎が必要な患者さんに対して、協力してもらえる介護センターを紹介
- (6) かかりつけの眼科に定期的な眼底検査を依頼

10. 日本医科大学老人病研究所

1. 収支計画

(1) 科学研究費補助金

高度先進的な研究を持続させるため、国庫補助金等公的研究費の申請件数を増やしていく

(2) 受託研究収入等

企業や大学、専門研究機関と連携を図ることにより、共同研究や受託研究事業を推進していく

(3) 寄付金収入

企業から寄付金を受入れるよう努力推進する

(4) 教育研究費等

①計画的に予算遂行することにより、無駄や無理な購入をやめ、支出経費の抑制を図っていく

②(試薬、材料、実験動物用餌等)の在庫管理(余剰在庫、死蔵品の抑制)を徹底する

(5) 光熱水費等

①電気・水道料等日常におけるこまめなチェックにより、傾向を把握し、経費削減を推進していく

②実験材料等の使用効率を推進し、医療 廃棄物、粗大ゴミ等の廃棄を抑制する

③計画的に予算遂行することにより、無駄な購入をやめる

(6) 教研用機器備品

①備品は、規定の耐用年数以上使用することを原則とする。新規購入については、必要度の優先順とする

②購入については、更新機器を優先順とする

③既存の機器備品の実査を実施する

2. 教育研究活動

(1) 日本医科大学老人病研究所

①先進的研究の推進に必要な大学院生・研究生の教育を行う。

②高度先進医療を可能とするための人材の育成

(2) 疫学部門

大学院生1名、ポストドクター3名在籍

(4) 病理部門

大学院生1名、研究生6名在籍

(5) 生化学部門

大学院生 2 名、研究生 2 名 ポストドクター 2 名在籍

(6) 免疫部門

大学院生 1 名、研究生 1 名 ポストドクター 2 名在籍

3. 研究活動

(1) 日本医科大学老人病研究所

- ① 武蔵小杉病院、多摩永山病院と連携して取組むトランスレーショナルリサーチの推進。

武蔵小杉病院内の研究室再構築と研究設備の充足を図る。

- ② 高度先進医療を行うための研究技術の開発癌研究、代謝研究を軸として細胞分子レベルでの研究から個体の研究までを遂行する

(2) 病理部門

- ① ケロイドの発症機構の解明と治療への応用
- ② 血管の口径サイズを決定する形態形成機構の解明
- ③ 救命治療の効率を高める迅速かつ簡易な診断方法の開発
- ④ スタチンによる脳卒中発症リスクの低下とその作用機序の解明

(3) 生化学部門

- ① 抗酸化物質「水素」の応用
- ② ミトコンドリアを標的にした蛋白質治療法の開発
- ③ ミトコンドリアにおける酸化ストレスと疾患
- ④ 癌、糖尿病・老化におけるミトコンドリアゲノムの体細胞変異の役割
- ⑤ ミトコンドリア脳筋症の治療
- ⑥ ミトコンドリアと核のストロークとミトコンドリアの生合成解明

(4) 免疫部門

- ① 発癌におけるグルコース代謝の役割の解析
- ② 慢性炎症による発癌誘発の分子機構の解析
- ③ p53 による癌化の抑制機構の解析
- ④ 新規炎症治療法の開発
- ⑤ アポトーシス誘導の分子機構の解明と癌化における役割の解析

(5) 疫学部門

- ① 成長ホルモンの分泌調整機構と生理作用の解明
- ② インスリン・IGF-I の細胞内シグナリングの生理的意義の解明
- ③ アディポサイトカインの病態生理的意義の研究
- ④ オーダーメイド医療実現化プロジェクト
- ⑤ 次世代がん研究戦略推進プログラム・日本医大内でのオーダーメイド医療の臨床応用に向けての研究を含む
- ⑥ 炎症性サイトカイン受容体の精鎖修飾を標的とした新規抗炎症治療法の

開発

(6) 分子生物学部門

- ① 水素水の網膜神経保護公課と酸化ストレスの定量的評価システムによる解析
- ② 消化管上皮の幹細胞ニッチ形成に関わるシグナル伝達経路の解明

4 国際交流活動

国際ミトコンドリア医学会の開催準備 (太田 成男)

5 連携事業

- (1) 川崎糖尿病懇話会 (監事: 南 史朗)
糖尿病病診連携、糖尿病に対する啓蒙活動、糖尿病スタッフ育成
- (2) 川崎内分泌懇話会 (代表幹事: 南 史朗)
内分泌診療に於ける人材の育成
- (3) NPO 法人 川崎糖尿病スクエア (理事: 南 史朗)
糖尿病病診連携、糖尿病に対する啓蒙活動、糖尿病スタッフ育成
- (4) 関東 PWS ケアギバーズ (世話人: 南 史朗)
Prader-Willy 症候群の診療、ケアのネットワーク作り。
- (5) ミトコンドリア病患者・家族の会 (顧問: 太田成男)
遺伝子疾患患者への援助と広報活動。
- (6) 川崎血管病フォーラム (代表幹事: 岡本芳久)
動脈硬化をはじめとする血管病についての研究会
- (7) 糖尿用チーム医療のための懇話会 (代表: 南 史朗)
チーム医療の推進
- (8) 川崎フットケアセミナー (代表: 南 史朗)
フットケアの勉強会

1 1. 日本医科大学国際交流センター

1. 収支計画

(1) 補助活動収入

国際交流会館（本館・別館）の寮費を徴収する

(2) 借入金収入

賞与のみ銀行からの長期借入金を利用する

(3) 資産運用収入

国際交流基金への寄付金収入額に対する銀行預金利息を得る

(4) 寄付金収入

国際交流基金設立募金を行う

2. 教育・研究活動

外国人留学者研究会の実施

3. 学生支援・国際交流

(1) 医学部学生国際交流助成金を支給する

国際的視野を持ち、世界で活躍できる医師・医学者を育成するため、学生の国際交流活動を支援する

(2) 日本医科大学医学部海外留学奨学金の貸与

海外留学を目指す学生の経済的支援を図り、留学の機会を多くする

(3) 外国人留学生に対する奨学金を支給する

外国人留学生に対し、医学、獣医学等のレベルの向上を図る

(4) 医学部学生を派遣する

国際的視野を持ち、世界で活躍できる医師・医学者を育成する

(5) 外国の大学との協定締結・更新を行う

大学間交流、特に学生の交換留学を積極的に行い、国際交流を深める

12. 日本医科大学知的財産推進センター

1. 本法人の知的財産に関する業務

(1) 知的財産に関する啓発活動

本法人内に対する啓発活動として、日本医科大学のメールアドレスを有する全員及び日本獣医生命科学大学の教職員に対し、継続して第1、第3木曜日に「特許の豆知識」と題したメールマガジンを送付し、知的財産に関する情報を発信していく。

また、日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 動物科学科 システム経営学 小澤教授の依頼により、日本獣医生命科学大学 応用生命科学部の学生に対して、知的財産推進センター事務室員が講師となり、知的財産権について1回、授業を行う予定である。

その他、平成24年度に改訂した冊子「特許の豆知識」を日本医科大学の講師以上の教員と各所属、日本獣医生命科学大学の全教員に配布することとしている。今後は助教・大学院生等若手研究者にも冊子の内容を理解していただくべく、より良い方法を検討していくこととする。更に、発明開示や相談を受けた際に、相談者に対して知的財産に関する情報提供等を行う。

(2) 知的財産の評価、維持活動

本法人の教職員から寄せられた発明について、知的財産として出願するか否か知的財産審議委員会で審議するための評価資料の作成を行うとともに、教職員に対して知的財産に関するアドバイスを行う。

更に、既に知的財産として出願を行っている発明について、その権利化及び維持のために特許庁との応答及び発明者対応を行う。

(3) 知的財産の実用化のための活動

既に知的財産として権利化した発明について、実用化をするための活動を行う。

具体的には、知的財産として権利化した発明のライセンスのために、HPへの掲載、補助金への応募の可能性の探索、企業との共同研究のあっせん等を行う。

(4) 産学官連携活動

本法人の知的財産を社会に還元するために、文京区、川崎市、東京都など各自治体との連携を深める。また、文京区内の大学等との連携を進め、本法人だけでは対応できない産学官連携活動の問題解決や実務者間の情報共有を図る。

2. 本法人の利益相反マネジメント業務

(1) 利益相反 (COI) に関する啓発活動

本法人内に対する啓発活動として、日本医科大学のメールアドレスを有する全員及び日本獣医生命科学大学の教職員に対し、継続して第2、第4木曜日に「COIニュース」と題したメールマガジンを送付し、利益相反に関する情報を発信していく。

また、日本医科大学においては、倫理委員会等と連携をして、臨床研究を行う研究者に対して、利益相反についての啓発活動を行う。

(2) 利益相反に関するデータベースの活用

利益相反マネジメントを行う上で、法人人事部、法人財務部募金助成課、日本医科大学研究推進部、日本獣医生命科学大学大学院課、各倫理委員会、各薬物治験審査委員会、遺伝子倫理審査委員会等から送付された情報を基に作成したデータベースを作成しているため、このデータベースを活用してより効率的に利益相反マネジメント委員会に対して情報提供を行う。

(3) 利益相反マネジメントの実施

日本製薬工業協会等が「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」を発表し、平成25年度から、前年度の大学や病院、医師等への共同研究費や寄付金、謝金等がすべてHPで公開される。これに伴い、本法人を巡る環境がどのように変化していくのか社会情勢を見極めると共に、社会から見て透明性の高い利益相反マネジメントを行うことができるよう、利益相反マネジメント委員会事務局として、利益相反マネジメント委員会に対し情報提供を行うと共に、平成25年度はどのような形で利益相反定期自己申告を行うべきか検討して頂き、その決定に従って手続を行う。

更に、臨床研究の利益相反マネジメントについては、引き続き各委員会との連携を密にとった上で、利益相反マネジメントに関する事務を行うとともに、学内手続きや本学での利益相反マネジメントについて書かれた冊子を活用した啓発活動を行う。

公的研究費の利益相反マネジメントについては、研究者の負担が軽減されるように作成したチェック票をはじめとして、ガイドラインなども活用して手続きの周知徹底を図っていく。

また、「日本医科大学共同研究に関する規程」及び「日本医科大学受託研究に関する規程」が平成24年4月1日から施行されたことに伴い、共同研究、受託研究の利益相反マネジメントを実施することも決定したため、日本医科大学研

究推進課と連携した速やかな手続きを実施していく。

(4) 利益相反マネジメントに関する情報収集

他の機関でどのような形で利益相反マネジメントを行っているのか、更に本学のシステムをよりよくしていくためには、どのような形で利益相反マネジメントを行っていくべきか検討するために、様々な機会を利用し情報収集を行う。めに、様々な機会を利用し情報収集を行う。

1 3. 日本医科大学看護専門学校

1. 収支計画

(1) 入学検定料収入

在学生の広報活動及びホームページ等の効果による、受験生の増加を計り増収を見込む。

(2) 受託指導収入

千葉県教育実習生の受入れ

(3) 給食収入

学生食堂利用者が増加傾向にある

(4) 寮費収入

入寮希望者が減少傾向にある

(3) 印刷製本費

平成23年度に作成した学校案内をリニューアルして作成する

(4) 教育研究機器備品費

平成25年度教育備品は必要最小限に抑える

(5) 事業活動費

平成25年度は千葉県看護教員養成講習会開催予定

(6) 電気料金の低減

「電気の見える化システム」を活用した節電

2. 教育・研究活動

(1) 指導要項改訂に応じて「技術含めた学生の実践能力評価」の見直しと就職先への連携と評価

(2) PDC Aのサイクルで自己点検自己評価への取り組みの継続と発展

一昨年より試行的に取り組んだ評価内容の見直し、委員会による整備とまとめの継続

(3) 看護基礎教育改革検討会の動向に応じた養成校の資質向上

①教員の研修や学会での学びを共有。臨床から異動教員の教員研修受講フレキションの検討

②入学生の基礎学力に応じて初年次教育の検討

(4) カリキュラム改正後、一昨年から卒業生の評価：フィジカルアセスメント、パンデミックドリル、災害看護演習各領域の演習、統合演習、総合実習等の到達状況・統合力の評価：就職後の離職率への影響、新人看護師卒後臨床研修への連携

(5) 看護大学化・少子化による養成校の学生の資質と数の確保困難

- (6) 看護師国家試験合格率の向上
教育に熱意ある学生の卒業校と連携した学生確保
- (7) 看護師国家試験合格率の向上
国家試験合格率95%以上
- (8) 講義・演習・実習で学ぶ内容の統合と活用：マトリックス作成プロジェクト
- (9) 学生の人間育成の為の連携：教員・事務・司書・寮管理職員等
変化している学生の傾向を理解し全職員協力し人間性育成に関与
- (10) 臨地実習における看護学生の倫理的感受性に影響する要因の分析
- (11) 臨床総合演習と臨床総合実習の評価（仮）

3. 学生支援・国際交流・地域連携

- (1) 印西市のボランティア活動への参加
- (2) 実習施設におけるボランティア活動への参加
- (3) 学校祭において地域の献血活動に参加
- (4) 地域中学・高校の職業選択活動への支援
- (5) 学生の声を教育環境改善に反映
学生からの意見の検討結果の公示や学生との話し合いによる信頼関係の構築
- (6) 外部実習交通費の学生割引利用率の向上
外部実習交通費の学生割引利用率向上による学生の経済的支援
- (7) 奨学金利用率向上による学生への経済的支援
- (8) 卒業生の日本医科大学4病院への就職率向上
- (9) インフルエンザ対策
早期に予防接種を実施し、啓蒙による感染防止の強化
- (10) 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎抗体価検査後の対策
小児看護学実習時の感染防止に活用